

原材料や部品 仕入れ難深刻

当社が七月中旬～下旬に県内の四百六十一事業所を対象に実施した調査で、原材料や部品などの仕入れを計画通りにできていない企業は五割強に上った。世界的な半導体不足の長期化に加え、新型コロナウイルス禍による中国のロックダウン（都市封鎖）、ウクライナ情勢などが複合的に影響し国内外で生産や物流が停滞していることが要因だ。

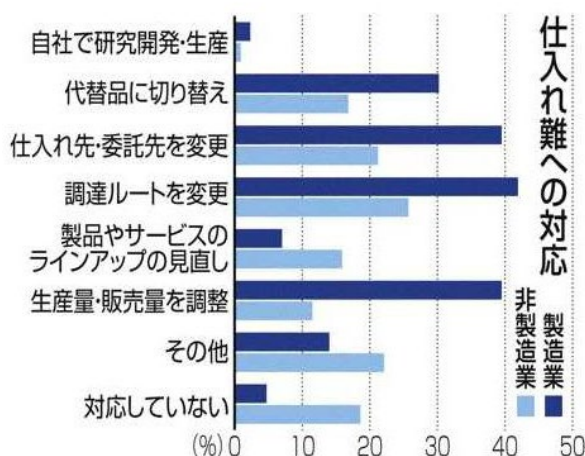
仕入れ難の品目は、石炭や鉱石、大豆、サーモン、電子部品、自動車、自動車部品、住設機器、IT 機器など多岐にわたる。納期が一年以上のものや入荷のめどが立たないものもある。

自動車部品メーカーからは、完成車メーカーが部品不足で組み立てができないため、自社も部品を出荷できずに収益が悪化しているとの声が上がった。部品の納期遅れによる工程変更で生産効率が低下している電機メーカーもあった。

特に製造業では、仕入れ難から生産調整を強いられる企業が、一年前の二割から四割に増えた。調達ルートや仕入れ先、委託先を変更する企業も約四割に上り、調達体制の見直しに踏み切る企業は少なくない。先行きが不透明な中、仕入れ先の新規開拓を課題に挙げる企業もある。こうした仕入れ環境の変化をチャンスにつなげてほしい。

（コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上千賀子）

原材料や部品 仕入れ難深刻



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2022年9月1日